



## 有家中だよりNo.7

令和6年11月11日  
南島原市立有家中学校  
校長 本多洋二

### ～実り多き2学期～

去る10月24日に合唱コンクールを実施しました。保護者、来賓の方々、総勢120名の参観がありました。参観された方々の感想は、異口同音に「良かった。素晴らしかった。」などとあるように、生徒たちがよく頑張り、感動の合唱コンクールになりました。他にも、有家町の文化発表会での吹奏楽部の演奏や中体連県大会での生徒の頑張りなど、充実した2学期になっています。



最優秀賞の3-2  
と3年生による全  
員合唱。感動！！



### こんな子いるかな？

#### ～発達障がいの子どもたち（その1）～

特に知的な遅れは感じられないのに、教師の指示に従えなかったり、落ち着きがなく、すぐに席を離れてしまったりする子どもがいます。また、集団生活を嫌がり、他の子どもとはどこか違う、変わっていると感じる子どもがいます。これらの子どもの中には、発達障がいと言われる子どもたちがいます。文部科学省の調査によると、通常の学級に在籍する児童生徒で、発達障がいの可能性があり、学習面、生活面で著しい困難を示す児童生徒が7%の割合で存在している。という結果が出ました。（右上に↑）

（左下から↑）そこで、「障がい」をどう考えるかということをお話します。

私は、老眼と乱視のため、近くがよく見えません。新聞等を見るとき、文字が二重に見え、ぼやけて見えます。そのため、老眼鏡を使っています。つまり、メガネがないと近くの文字等をハッキリ見ることができません。近くを見るということに関しては「障がい」があります。しかしながら、メガネを使うと障がいがなくなります。

同じように膝が悪くて、歩道橋を渡ることが困難な方がいらっしゃいます。これも障がいがあると言えます。しかしながら、横断歩道があれば障がいにならないということもできるでしょう。

つまり、「障がい」というのは、社会環境との関係で表れたり無くなったりすることなのです。車いすを使わなければ移動が困難な人も、車いすという道具を使い、スロープ等が整備された通路を通ることができれば、移動に障がいはないと言えます。だから、その人が「障がいを持っている」のではなく、社会生活を営む上で「障がいがある」と考えるべきだと私は思います。学校も同様で、学校生活を営む上で、障がい（ハードル）がある子どもたちがいます。これらの子どもたちに適切な指導や必要な支援をすることが学校の大きな課題です。

次に発達障がいの子どもたちの特徴について説明します。発達障がいとは、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）LD（学習障がい）、自閉症スペクトラム（高機能自閉症・アスペルガー症候群）を言います。次号では、発達障がいについて、具体的に特徴を説明します。

### 見事！九州大会出場

去る10月27日に開催された県中学校ソフトテニス新人大会男女団体、個人戦で、団体は、男女ともに2回戦で惜敗しましたが、個人戦では、本多・白石ペアがベスト8に入り、12月に熊本市で行われる九州大会出場権を獲得しました。



### 名演奏！吹奏楽部

### 落語家の人にお礼と花束を



### <今後の予定>

#### 11月

- ・ ~12日(火) 三者面談(3年生)
- ・ 13日(水)~15日(金) 修学旅行
- ・ 15日(金)~17日(日) 西望展・古野展覧会(南有馬体育館)
- ・ 16日(土) PTAペタンク大会
- ・ 17日(日) 西望展、古野展表彰式
- ・ 22日(金) 地域学習(1年)
- ・ 25日(月)・26日(火) 期末テスト
- ・ 28日(木) 芋ほり体験(3・4組)
- ・ 29日(金) 命の学習(3年生)

#### 12月

- ・ 2日(月) 生徒会選挙
- ・ 5日(木) 授業参観・学年学級PTA、
- ・ 18日(水) PTA本部役員会  
(19:00~本校会議室)
- ・ 19日(木) 生徒集会
- ・ 24日(火) 大掃除・終業式

## ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

### 『2つの報告書』

ある靴工場の職員二人が裸足で生活するアフリカに行き、靴を売るための市場調査を行いました。周辺の国も調査し、各自、報告書を作り、本社に送りました。Aさんは「アフリカには靴を輸出できません。靴を履いていないから、靴が売れる可能性は0です。」Bさんは、「アフリカは輸出の可能性100%です。黄金市場です。まだ誰も靴を履いていないから、靴が売れる可能性はあります。」全く逆の報告をした二人。頭に希望のイメージを作れば、脳は肯定的な考えを生みだし、絶望のイメージを作れば、否定的な考えを生みだします。

同じ状況でも、見方を変えると考え方も変わります。常に可能性を信じたいものです。生徒の皆さんは常にプラス思考で、色々な取組において「必ずできる」という強い意志を持ってチャレンジして欲しいです。そして、色んな視点からものを考え、可能性を拓けてほしいです。

2学期の合言葉は、「できる、できる、できる、必ずできる」。学校スローガンは「見つけろ！広げろ！我が可能性を！」です。生徒たちが持っている可能性を、大きく拓けてほしいと考えています。物事が大成するかどうかは、考え方一つで大きく変わります。プラス思考で生きたいものです。